

正誤表・更新情報

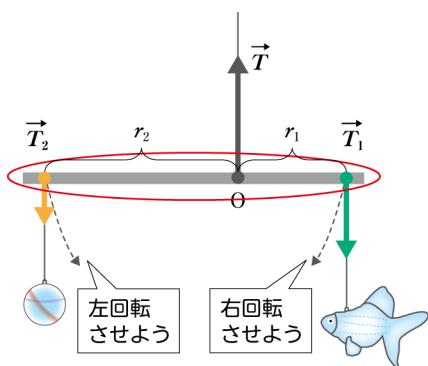
本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年5月23日）

■第1版 第1刷（2025年1月25日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
1章 力とそのつり合い					
28	図1-31		※1参照		25/03/21
29	18行目	図1-31のモビールパーツでは全体をつるす糸の取付位置Oが重心である。	図1-31のモビールパーツでは全体をつるす糸の取付位置Oの真下に重心がある。		25/03/21
2章 運動と力					
60	20行目	$K = \frac{g}{l}$	$K = \frac{mg}{l}$		25/03/21
3章 エネルギーと運動量					
76	確認問題解答	42 m/s ²	42 m/s		25/03/21
4章 熱と温度					
95	3行目	実は、力学的エネルギー・熱・電気エネルギー・光エネルギー・化学エネルギー・核(原子力)エネルギーなどは互いに変換することができる（→12章）。	実は、力学的エネルギー・熱・電気エネルギー・光エネルギー・化学エネルギー・核(原子力)エネルギーなどは互いに変換することができる。		25/03/21
8章 電気回路					
176	問題3の5行目	1ヶ月を30日として、この場合の電気使用量は何日分の電力量か。	この場合の電気使用量は何日分の電力量か。		25/05/23
9章 静電気力と電場					
189	下から6行目	3.2.2で学んだ位置エネルギー	3.2.3で学んだ位置エネルギー		25/05/23
191	1行目	正電荷($q > 0$)の場合、 $V_{\text{高}} \rightarrow V_{\text{低}}$ に対応して、電荷は $U_1 \rightarrow U_2$ の向きに力を受ける。一方、負電荷($q < 0$)の場合、 $V_{\text{低}} \rightarrow V_{\text{高}}$ に対応して、電荷は $U_2 \rightarrow U_1$ の向きに移動する。 $q < 0$ を考慮すると $U_1 < U_2$ であるから、	正電荷($q > 0$)の場合、 $V_{\text{高}} \rightarrow V_{\text{低}}$ に対応して、電荷は静電エネルギーの大きな方(U_1)から小さい方(U_2)へ向かう向きに力を受ける。一方、負電荷($q < 0$)の場合、 $V_{\text{低}} \rightarrow V_{\text{高}}$ に対応して、電荷は U_2 の位置から U_1 の位置に向かう向きに移動するが、 $q < 0$ を考慮すると $U_1 < U_2$ であるから、		25/05/23
195	19行目	緑色の曲線が等電位であり、図9-21Aの曲線と同じものである。	緑色の曲線が図9-21Aの曲線と同じものである。		25/05/23
10章 電気と磁気					
203	図10-5		※2参照	誤りではないが、9章との用語統一のため修正	25/05/23
204	図10-8 Aのキャプション	⇒同種磁荷間には反発力が働く。	⇒同種磁荷間には斥力が働く。	誤りではないが、9章との用語統一のため修正	25/05/23
221	19行目 (10.11)式	$IR^2 \sin^2 \omega t$	$I_0 R^2 \sin^2 \omega t$		25/05/23
223	4行目	ヘルツ(2章※10参照)	ヘルツ(2章※11参照)		25/05/23
224	9行目	波長約 $7.7 \times 10^{-7} \sim 1 \times 10^{-4}$ m(振動数およそ $3.9 \times 10^{14} \sim 3 \times 10^{16}$ Hz)の電磁波	波長約 $7.7 \times 10^{-7} \sim 1 \times 10^{-4}$ m(振動数およそ $3 \times 10^{12} \sim 3.9 \times 10^{14}$ Hz)の電磁波		25/05/23
11章 原子と量子					
229	2行目	この変化量から比電荷を $e/m \approx -10^{11}$ C/kgと計算できた。	電子の電気量を-eとして、この変化量から $e/m \approx 10^{11}$ C/kgと計算できた。		25/03/21

図表

※1 赤丸部分を以下のとおり修正ください(灰色の棒を左に移動)



※2 赤丸部分を以下のとおり修正ください(反発力→斥力)

